

文語の苑

メールマガジン第二十二号（平成二十五年四月）

「権力」

権力とは恐ろしきものなり。歴史に鑑みるに権力を巡る争ひは壮絶にして騎虎の喩へは真なり。争ひに敗るときは直ちに命を失ふ。表立ちたる争ひに至らずとも権力者はその地位を窺ふ者を容赦なく滅す。かのオスマン帝国においてはスルタン新たに帝位に即くや自ら縊死せしめんがためその兄弟に絹の布を賜ひ、かくして後顧の憂ひを絶ちしと言ふ。かかる例は古今東西列挙に違なし。君主制民主制に変わってもこの事情に変わりはなし。一旦選挙に敗れその地位を失ふときは、次期大統領により訴追を受け、投獄せられ、果ては処刑せらるることも稀ならず。これを免れむがため、選挙に介入し、甚しきに至っては政敵を弾圧、暗殺するなど後進国政治の日常茶飯事なり。政権の座にあるとき賄賂により蓄財し、一族の便宜を図るは引退後の身の安全を確保するために外ならず。かかる不正事、後の報復を招くこともまた事実なり。

隣国韓国においても政権を離れし後の大統領ほぼ例外なく末路哀れにして、同情を禁じえず。真に平和なる政権交代なき限りこれ等の国の政治の腐敗を根絶するは夢のまた夢と言ふべし。形の上にては選挙制に基づき同じ民主主義とは言へど、政権を離れし後の安全保障の有無は大なる差異にして、この基準を用ゐて政治の成熟度を測ることは政治学者の為すべきことに非ずや。

上記は韓流テレビ歴史番組を見ての感慨なり。

愛甲次郎

文語の苑

メールマガジン第二十二号

小倉百人一首 二十 藤原敦忠

逢ひみてののちの心にくらぶれば 昔はものを思はざりけり

谷崎潤一郎に「少將滋幹の母」と云ふ(う)小説があります。醍醐天皇の御代の人臣最高位の左大臣であり、右大臣の菅原道眞を天皇に讒言して九州の太宰府に左遷した藤原時平は、才氣と學識は十分なのですが、驕慢で傲ったところがあり、世の人の評判は芳しくなかつたらしい。後年この人も一族も若死にして後が絶え、菅原道眞の祟りと言は(わ)れて人の同情を買は(わ)なかつたのは、そのことと關係があつたかと思は(わ)れます。この藤原時平の伯父に、老年になつて漸く大納言に昇進した藤原國經なる人が居りました。國經の自慢は老年になつてから娶つた若い妻です。國經は在原業平の孫に當る在原家出身の美人の妻を自宅におき、北の方として鍾愛して居りました。ところが時平はその伯父の若い妻に関心を持ち、國經の邸を訪問します。國經は若い甥ながら今を時めく大臣(おとど)の訪問を喜び、大款待。時平は北の方を譽めそやししながら酒杯を煽り、伯父にも勧めます。國經は甥の大臣がそんなにも自分に気を遣つてくれるのが嬉しくてならず、勧められるままに杯を重ねて遂に酔ひ(い)潰れてしまふ(う)。そしてあら(ろ)うことか、家に来てくれた時平への引出物として自分の妻を差上げようと言つてしまひ(い)ます。時平はそれを聞くと傍若無人に邸の奥に踏込んで北の方を攫ひ(い)、牛車に乗せて自分の邸に連れて行きました。國經は酔ひが醒めて後悔しますが追付きません。國經と北の方の間には後に少將滋幹となつた少年が残され、「少將滋幹の母」はその少年の、いかにも谷崎潤一郎らしい母戀ひ(い)の物語です。

所が藤原時平の妻となつた藤原國經の北の方は、時平に攫つて行かれたとき國經の子を懐妊して居りました。月満ちて生れた子は時平の子として育てられ、順調に出世して權中納言にまでなります。それがこの百人一首の歌の作者、藤原敦忠です。在原業平の血を引いて母親似の水の滴るや(よ)うな美男子で和歌の名手、「世にめでたき和歌の上手」である上に、琵琶の中納言とも呼ばれた琵琶に秀でた人でもありました。「逢ひみての」の「逢ふ」はもちろん現代の「逢う」ではなく、男と女が一夜深い契りを交は(わ)すことです。契りを交は(わ)した後の男の女に對する氣持は重く深いものになつて、それに比べれば契りを交は(わ)す前は何も考へ(え)てゐ(い)なかつたや(よ)うに思は(わ)れます。そんな誰にもある感情の動きを素直に、易しい言葉で詠つた歌は多くの人に愛誦され、この歌から「逢ひみてののちの心」と云ふ(う)言葉が世に弘まりました。

容姿にも和歌と音樂の才にも恵まれた藤原敦忠も、壽命には恵まれませんでした。若くして左大臣に昇任した父の時平は三十代のうちに世を去り、菅原道眞の祟りと言は(わ)れ、敦忠の兄の保忠も、姉とその夫の保明親王も、その御子で東宮に立てられた慶頼王も若くして亡くなりました。敦忠は自らの短命を意識し、保明親王の死後その妻の一人を娶り、その妻に自分の一族は短命だから自分も早く死ぬだら(ろ)うと言ひ(い)、自分の死後の妻の再婚相手まで正確に預言します。時平一族の血は絶え、藤原氏の本流は生前の菅原道眞と仲が好かつた弟の忠平の血統に移り、かの藤原道長は忠平の曾孫です。

加藤淳平

文語の苑

メールマガジン第二十二号

大和にはあらぬ唐鳥の跡やまと 愛國百人一首を讀む（十八）

ふみわけよ大和にはあらぬ唐鳥の跡をみるのみ人の道かは 荷田春滿かたの あつまる

漢字が發明されたのは、古代中國の黃帝の時代、蒼頡といふ人が鳥の足跡を見て字を作つたとされてゐます。その漢字が我が國に傳來して、一つは元からあつた大和言葉を書き表すこと、もう一つは漢土の文化を學び取入れることに利用されました。その成果は漢文の訓讀と萬葉假名の使用に始り、奈良時代には古事記、日本書紀、萬葉集の撰録や、律令制度の成立に大きな力を發揮しました。

平安時代に入ると、遣唐使を派遣して漢土の文化を高度に吸収することに力が注がれ、最澄と空海による衆生濟度の佛教の導入や、漢文による日本の正史即ち六國史の整備、漢詩集の敕撰など後世の我が國文化に大きな影響を及ぼしました。

しかし一方で我が國本來の文化も重要だといふ意識も萌え、これが假名の發明を通じて遂に古今和歌集の敕撰となり、國文學が開花することになります。平安遷都後約百年のことでした。

このやうに外來文化を十分に吸収した後、これを我が國独自の文化の發展に活用することは日本文化の特徴と考へられますが、江戸時代にも同様の現象が起きてゐます。即ち、戦亂がなくなり、武藝から學問への轉換で先づ取上げられたのは漢學でありました。中江藤樹、林羅山、伊藤仁齋、荻生徂徠、山崎闇齋など、勝れた漢學者が輩出して多くの若者が弟子入りしました。

荷田春滿が活躍した元祿から享保にかけては、恰度元和偃武から凡そ百年が經過し、漢學から國學へと關心の移行期でありました。掲出の歌は鳥の足跡に象徴される漢土の學問にのみを眼を向けて、我が國独自の文化を疎かにして好いものかと問掛けてゐます。春滿はその本姓羽倉氏に因んで羽倉派と稱して大いに國學を奨励しましたので、先達にして自身も深く尊敬してゐた光圀、契沖を差措いて、國學四大人の筆頭に擧げられるに至りました。

愛國百人一首編纂の時期は明治維新開國から算へて約八十年、歐州文化の流入を歴て、そろそろ我が國独自の文化を見直す時に當り、四大人の態度に學ぶべきとして、夫々の歌が入集してゐます。教育基本法では、その前文に「普遍的にして個性ゆたかな文化」を旨指すとあり、決して普遍的ではない我が國の文化は長く教育の対象外でありました。平成十八年の改正で漸くこの部分が「傳統を繼承し、新しい文化」となりましたが、徒らに偏狹な國粹主義に陥らないためにも四大人に學ぶ所は大きいと思はれます。

市川浩

文語の苑

メールマガジン第二十二号

疑問の終助詞「や」と「か」の接続

A 親は剣を握らせて人を殺せと教へしや
B 日出づる處の天子、書を日没する處の天子に致す。恙無きや。

Aは、與謝野晶子のいはゆる反戦歌。出征する弟に向つて、「死なないで歸つておいで」と呼びかけたものです。それにしても、日露戦争のときに、こんな歌を作つても、逮捕されなかつたといふ事實にびっくりします。社会的非難は浴びたやうですが。

もつとも、大東亞戦争のときには、海軍大尉になつた息子に対して、「水軍の大尉となりて我が四郎御軍に行く猛く戦へ」といふ勵ましの歌を與へてゐます。「四郎」とは「四番目の息子」。この歌のことはほとんど知られてゐないやうです。

「反戦詩人の與謝野晶子がそんな歌を作るはずがありません」と女性から怒鳴りつけられたことがあります。

「善がない」とおつしやつたつて、事實があるんですから。

因みに、第一次大戦でも、日本は少しばかり参戦し、青島攻略戦などが行はれました。このとき、晶子が作つた口語詩にも驚かされます。

今は戦ふ時である。嫌ひの私さへ、今日このころは氣が昂ぶる。

Bは、六〇七年、聖徳太子が、小野妹子に託して、隋の煬帝に送つた國書です。朝貢外交を拒絶して、對等な關係であることを主張したので、煬帝は「蠻夷の書、無禮なるものあり。また以て聞するなかれ」と怒りました。「聞する」は手紙などを「取り次ぐ」こと。

もつとも、いつたん怒つた後は、日本側に對して好意的な態度を取り、翌年、妹子が歸國するときには、裴世清以下十二人の使節を伴はせました。高句麗遠征に失敗してゐたので、日本を味方に引き付けておく必要があつたからでした。

ところで、煬帝の「煬」の字は、「盛んに燃える火」を表してゐます。餘りに激しい意味を持つてゐるので、人の姓名に使ふことはありえない字なのです。

實は、隋朝の皇帝の姓は、楊貴妃と同じ「楊」です。

煬帝が激しい氣性の人だつたので、後の人が、木偏を火偏に變へて、惡名を付したのだといふことです。

Aの「教へしや」とBの「恙無きや」に注目します。

Aの「し」は「過去の助動詞『き』の連體形」、Bの「き」は「形容詞『なし』の連體形の語尾」です。「なるほど」疑問の終助詞『や』は連體形に接続するんだな」と思つてはいけません。

疑問の終助詞「や」は終止形接続、「か」は連體形接続なのです。

ぢやあ、どつして「教へしや」「恙無きや」となつてゐるかといふと、單純な間違ひなのです

「與謝野晶子が文法の間違ひを犯すはずがない」とおつしやるでせうか。善がないとおつしやつても、事實があるんですから。

文語の苑

メールマガジン第二十二号

芭蕉だつて間違ひを犯してゐるのですから、與謝野晶子が同じことをしても、不思議はありません。ここは、「教へきや」または「教へしか」と直さなければならぬのです。

「恙無きや」は隋書倭國傳の文を日本人が訓讀するとき間違へただけです。「恙無しや」または「恙無きか」となるべきところです。

間違つて讀んだのが、そのまま定訓になつてしまひました。文部省唱歌の「恙無しや友餓鬼」の方が正しいことになります。

過去の助動詞「き」は、終止形が「き」で、連體形が「し」です。

それに對して、形容詞の語尾は、終止形が「し」で、連體形が「き」です。

この紛はしさのために、たびたび誤用が起ります。

現代日本人の書く文語文で、一番間違ひの多いのが、ここの所です。

敕撰和歌集に、「ありやなしや」とか「思ひきや」などという言ひ方が出てきます。

この二つを憶えておくだけで、過去の助動詞「き」と形容詞語尾の「き」と「し」の使ひ分けが分かります。

少なくとも、「ありやなしや」を思ひ出すだけで、「恙無きや」が間違ひであることは明白です。

高田友

文語の苑

メールマガジン第二十二号

巴里の三つ星レストラン(一)

(注記) 飽くまでも二十年前(平成五年)の手記をもとにして、その文語化を試みたるものなれば、最新情報には非ざる点、留意せられたし。

AMBROISIE(アンブロワジー)

四区。マレ地区のヴォージュ広場に面したり。巴里にはミシュランの三つ星店五つあれど、小生の見るところ首位に位置せるは、断然このアンブロワジーなり。店主兼総料理長のベルナル・パコ氏、野菜の使用方に卓拔し、盛り付けの彩りの美しさは類稀れにて、ロビュション氏ほどには人工的に非ず。お勧めは、品書きに記載なき特別定食(多くの種類の皿を少量ずつ供するコース)なり。その内容の何たるかは、その日によりて異なり、接客担当のパコ夫人をして、調理場のパコ氏に尋ねしむるの外なし。典型例を挙げれば、一、突出し、赤ピーマンのムース(ピューレ状にしたる材料に泡立てたる生クリーム、卵白などを加へ仕上げたる料理)、之はパコ氏の名人芸なり。二、赤座海老と波稜草を胡麻煎餅如きに挟みたるもの、三、焼き魚(皮付きの鮭)と緑のアスパラガス、四、仔羊のクルステイヤン(カリッとせるパイにて巻きたるもの)、五、乾酪、六、赤きシヤールベット、七、デザート数皿(ミルフィーユ、果物系、シヨコラケーキ)といふ具合。時に依り幾つかの皿の変更ありて、二の替りにフォアグラ、三の替りに鰈と朝鮮薊、四の替りに牛の尻尾といふこともありき。突出しの赤ピーマンのムースより始めて幾つかの皿の供せられたる後に、ムースと全く相似形の赤きシヤールベットに回帰せる発想の素晴らしき哉。

印象に残るアラカルトの逸品は、ショーン(半円形のパイ)・ド・トリュフにして、元祖の名店ヴィヴァロアを凌ぐ大きさ、特にパイ生地はより良質。トリュフの後味は其の日の就寝時まで持続し、「かくも美味なるものはこれまで食したることなし」と確信せしめられたり。サービスは高水準なれど、やや気取りありて、自家製のシャンパンをば勧むること多し。通常よりも悪酔ひする確率高ければ、くれぐれも要注意。

JAMIN(ROBUCHON)(ジャン(ロブション))

十六区。ジョエル・ロビュション氏は、巴里にて最も有名なる料理長なり。予約の困難なること巴里随一なり。印象に残るは、トリュフのタルトにして、ヘラルド・トリビュン紙の料理欄を執筆せるパトリシア・ウエルズ女史のロビュション紹介写真集の表紙を飾る品(ベーコン、小玉葱、トリュフを材料とす)を基礎としつつ、これをトリュフ尽しとなせる特別な逸品なり。食するが気恥づかしきほどに一面に敷きつめられたるトリュフは圧巻にて、一生に一度の御馳走とこそ言ふべけれ。経験より言はば、三ツ星レストランにては、定食を取りたる方が満足感高く、一品料理に比べ費用対効果、遙かに宜しと覚ゆ。ジャマンの特別定食は例へばかくの如し。一、突出し、串刺しの焼き鳥風の魚に葱。二、スープ、編笠茸とアスパラ。三、フォアグラに蕪、軽き味付け申し分なし。四、蟹のすり身を贅沢に使ひたる色取り取りの華麗なる料理。五、鰈、やや大きすぎ、店特有のソースなれども醤油の方が日本人の口に合ふ。六、仔羊、七、乾酪、ロックフォール(青黴チーズの代表格にして羊乳を原料とす)は系鋸にて切るパフォーマンスあり。八、デザート サヴァラン(ブリオッシュにラム酒等を沁み込ませたる大人のデザート)に赤白の模様を附したるもの。 キャラメル・プリン、底に溜まりたる黒き粉はヴァニラなり。

手押車より好みのデザートを選ぶ。

失敗品の例。鱈の揚げ物は、日本の安物惣菜屋の味そのものにて落胆す。ココナツ・シヤールベット、餘りにも甘すぎて辟易す。

文語の苑

メールマガジン第二十二号

日本製品

日本製品は今なればこそ、世界に冠絶する質の高きを以てその名高けれ。一九六十年代初頭にアメリカの中学校に通ひしころは、日本の商品といへば、クリスマス飾り付け等安もの多く、せいぜいトランジスタ・ラジオなりき。木と紙で作られし家に住んでゐるやとか、チョンマゲ結ひて刀を下げてゐるやとか、途方もなき質問にも遭遇しき。とりわけ不快に覺えたるは、「Remember Pearl Harbor」なりき。米國の生活も慣れたる一年後、日本のオートバイ賣れ始め、特にビーチボーイズの歌「ホンダ、ホンダ、ホンダ」等と連呼するによりて、いよいよ市場を擴大したりとの由。我、嬉しくクラスメートにホンダは日本製なりと言ひたれば、なんでふかかることありうべき、日本製品は悉く劣悪なりと反論せられ、大喧嘩くまげわになりき。當時日本大使館の參事官なりし父に相談せしに、最近制作せられたる日本經濟に關する短き映畫があれば、社會科のクラスにて見るは如何といふ。翌週、社會科の先生に提案したるに、贊意を表し給ひけり。映畫の冒頭はハイヒール履きたる脚線美の闊歩する情景なり。而して、ヤマハのモーターボート、カワサキのオートバイなど、日本の誇りたる高品質の製品を次々紹介してあり。ストーリーは既に忘却の彼方かなたにあれど、凄まじき勢ひを以て日本經濟の急成長したるを見る映畫なりき。クラスメートが驚きたるは言ふに及ばざれども、先生さへ驚き、全校生徒に見するに至れり。高品質の製品少なからずとの趣旨を納得せしめたり。今日にてはありうべからざることなり。

赤谷慶子